

ワイン酒多飲日記

(シュタイン)

3期 田村 昭夫

1996 5/12 (日) 晴れ、小雨のち晴れ

(就任の辞)

今日からBergheim小屋番となりました3期の田村です。この倉谷が「安らぎの里」になることを望み、残りの人生をこれにかけます。

5/13 (月) 朝のうち雨、のち晴れ

「カメ虫の命と人間の命の優劣について」を半年かけて考えてみたい。午後金沢の町に出かけ、村田さん(7期)、小林君(3期)に会う。小林宅で泊まる。

5/14 (火) 晴れ

午後3時半帰小屋。

5/15 (水) 快晴

4時起床。ワイン飲む。飯食う。のち洗濯。炭焼小屋跡調査(数カ所確認)。午後金沢工大電気科3年室井宗晴君小屋に訪れる。岩魚0匹。

5/16 (木) 快晴

靴置台製作。岩魚1匹。瞑想。

5/17 (金) 快晴

Chain sawの作動せず。分解修理必要。岩魚0匹。

5/18 (土) 晴れ

午前、金大文学部鹿野教授(金大山岳部顧問)夫人、小屋を訪れる。金沢工大学生室井君来る。7pm頃大出徹氏(12期)BergHeim到着。3人でdrunken und schlaff。

5/19 (日) 快晴

大出氏、室井君高三郎に向かう。(5:30 am) 午後岩魚大小2匹持参。大をサシミに小を骨酒



に。鹿野夫人4pm頃小屋を再訪す。イタドリのお煮物、ナツメ差し入れあり。

5/20 (月) くもり時々雨

酒と素粒子論。クォークが究極とは思えない。超磁理論でクォークを説明できれば究極理論の完成である。正午ダムサイトまで出。舟田女史にTel。夜来雨漏りあり。

5/21 (火) 晴れ

聖書を読む。午後金沢へ。舟田女史に会う。夜半雷雨。雨漏り2ヶ所らしい。

5/22 (水) 曇時々雨

素粒子論を学ぶ。午後松田権六著「うるしの話」を読み、感銘する。

5/23 (木) 朝晴れ のち曇 午後晴れ

本日から日本酒を主食とする。1食100cc。但しパン等は副食とす。ワイン、ウィスキーは適時飲む。午前9時、便所4本柱建前。午後ダムサイトまで。途中危険箇所2ヶ所に安全ロープ。岩魚0匹。

5/24 (金) 晴れ時々曇のち晴れ

便所建設開始。午後ダムサイトまでの道危険箇所の足場切り。4時pm帰小屋。飲んで寝る。

5/25 (土) 晴れ

正午頃、理学部生物学科植田先生以下17名小屋到着。午後学生達が山にでかけている間に、便所建設完了。夜、皆で廃材でキャンプファイヤー。

5/26 (日) 晴れ

午後2時半学生達小屋を去る。又静かさが戻る。

5/27 (月) 晴れ

小屋まわり整備。洗濯。散歩。

5/28 (火) 晴れ

6時起床。金沢の街まで出る。途中山道整備。食料購入。葉書出し、ワングル部室訪問。生物学科表敬訪問。どうでもいいが、大学を何故あんな山中に移転したか。日本一不便な大学と言われる由縁である。ワングルと山岳部が同居しているのもおもしろい。いっそ昔のように「山の会」に戻したらどうか。新名称は「金沢大学山野漂泊の会」なんてのはどうだろうか。ドイツ語ならさしずめKanazawa Universität Bergsteigen und Wanderung Velein(K.U.B.W.V.)とでも云うところか。

5/29 (水) 晴れのち曇

ダムサイトからBerg Heimに至る道の危険箇所の足場切りやロープ張りほぼ完了。今後とも継続して修復は行っていく。約20日間の山小屋生活から感じたこと、それは今、日本人の多くが捨て去った山村生活にこそ至福の生活があるということである。21世紀の日本人の生き方としての提言だが、若者は海外へ出て発展途上国の海外協力隊員となり、現地の人と結婚して彼の地に骨を埋めること、定年を迎えた人達は山村に戻り、父祖の地を復興させること。これが日本人として活力を取り戻さす一策と思うか如何に。



5/30 (木) 晴れのち曇

ダムサイトまで電話を借りに行く。午後素粒子論を学ぶ。私の思い上がりか知らないがクォークは超磁で説明できる気がする。アインシュタインの式 $E=mc^2$ も面倒な相対生原理を使わなくともエネルギーの式から誘導できる。とすると俺は宇宙をつかんだことになる。時間は宇宙の表面積である。ニュートンは時間をアブリオリなる直線(0次元)と考え、アインシュタインは時間を距離(1次元)と考え、田村は時間を面(2次元)と考えた。つまり時間 t は $4\pi r^2$ である。但し r は宇宙半径。

5/31 (金) 曇

カメ虫と人間についての問題の解答が出た。カメ虫を人間が嫌うのは臭いからである。故にこの対抗策として人間がカメ虫に嫌われる匂いを出せばよい。つまり小屋にカメ虫の嫌いな匂いのする塗料を使うことである。今日も無為な至福の一日が暮れる。

6/1 (土) 曇

宮沢賢二の「雨ニモマケズ」の最後の方の一節「ヒデリノトキハナミダヲナガシ、寒サノ夏ハオロオロアルキ」が今までその意味がはっきりしなかった。それは百姓の気持ちになると云うことだ。早魃にならぬかと心を痛め、冷害にならぬかと心配することだったのだ。俺には百姓の気持ちは今までわからなかった。工学なんて学び、プラスチックの物性なんてばかりやっていたからだ。BHに住みつきはじめて、山村の人達の心がわかった。人生にはわからないことが多い。その立場になって初めてわかるものだ。

聖書マタイ5章3節も日本語の聖書では「心貧しきものは幸なり。天国は汝のものなればなり」もどうもしっくりしなかった。しかし英文の聖書を読んではっきりした。それには
Happy are those who know they are spiritually poor; the Kingdom of heaven belongs to them!

「心が貧しい者」ではなく「心が貧しいと自覚している者」であったのだ。

6/2 (日) 快晴

午後、岩魚釣りに来た南保さん（NTT勤務）を小屋に呼び込み、3時頃まで談笑す。炭焼きの件には同感を示された。協力を約束して帰る。夜10時満月を見る。一隅照顧、脚下照顧。

6/3 (月) 曇

旧道補修7:30am-3:30pm。高三郎まで行けず途中で引き返す。バテた。酒と天麩羅油を交互に飲み、あられを食ってたら腹が立った。「おとなの味」なんて書いてある。誰が大人になるものか。我、永遠に緑なのだ。大人になると云うことが人生のはかなさを知ることなら、俺はいやだ。人生は永遠のものだ。神の御手にあるものにとっては。サミエル・ウルマンの詩にもあるではないか。

6/4 (火) 曇時々雨

空模様があやしいので山道作業は中止。屋根雨漏修理。素活深考。質素な生活をし、物事を深く考える…私の造語である。贅沢すると人間は物を考えなくなる。満腹だと眠くなる。粗食して空腹でいると神経が研ぎすまされる。したがって頭脳が鋭くなる。

6/5 (水) 晴れ

旧道補修 7:30am-4:00pm。1089mpeak から一旦下った窪地の残雪の地点まで。雪で道が不明な為、登山道以外の木を切ったかもしれない。

山道で学生時代の俺に出会った。

「今なにしているんだ」

と学生時代の俺が聞くから

「いろいろあったが、今小屋番をしながら山道の整備をしている」

と答えた。

「ふーん」

と不審そうな顔をして、学生の俺が尋ねてきた。

「昔の理想はどうなったんだ」

今の俺は

「歌の文句じゃないが、富も名誉も恋も、遠き憧れの日のことさ。今は一隅を照らすことに専念することにした。お前にはわからないと思うが、やがてわかるさ。さようなら。Bergheimで待っている」

と答えた。

小屋に帰って昔唄った歌をハーモニカで次々に吹いた。何故か涙が出てきた。「栄光、我をば去りぬ」か。

6/6 (木) 晴れ

新道修復7:30am-5:20pm。砺倉分岐から約300m、きつかった。28,9年前工学部工業化学分析化学教室の上田教授、山本助教授を工化大学院生吉野君（ワングルOB）と小生で、高三郎に案内したことを思い出した。当時の上田教授と現在の小生の年齢はほぼ同じ。先生にとってさぞきつい登山だったに違いない。帰りにオロロの猛攻撃には両先生も参っておられた。

夜10時頃カベ板の隙間からヘビ侵入。追放。



6/7 (金) 曇のち晴れ 夕刻雨

新道補修7:40am-5:10pm 昨日に+100m伸びたかな程度。大都会のサラリーマンと同じく、現場に到着するまでにエネルギーを使い果たし、ろくな仕事ができない。山道を作った人の苦勞がしのばれる。彼等にとって山道は生活道路だったはずである。自分達とは事情が異なる。したがって意気込みが違う。前進基地を設けるべし。

6/8 (土) 曇のち雨

素粒子論学ぶ。ダークマターの量が未来の宇宙がこのまま拡大するか、または縮小するかを決定すると云う。そもそもダークマターなるものは一体何者か。自然とは知れば知る程不可解なものである。学問とは疑問を生む為のものとも云える。そして自然(神)の偉大さを知る手段でもある。

6/9 (日) 雨のち曇

小生の還暦まであと80日。8月28日まで一日二合の日本酒で頑張ってみる。聖書と相対性理論研究で暮らす。

6/10 (月) 曇のち雨

ワンゲル現役にアイルランド出身の女子留学生が居ることを思い出し、便所に西洋式便器を設置した。彼女に使用感想を聞き、改善するつもりである。現役達よ早く来い。

酒に酔い、ウグイスの声を聞く。自分がこの世に実在している確かな証拠である。夢でなく現実である。デカルトは疑って、疑って、疑いぬいて自己の実在に達したが、私は現実があるがままに受け入れ、実在を認める。人生の目的とは、神の世、私の極楽浄土をこの世に実現する為に、各自相応に努力することである。

鳥獣達は既にこの世を楽園としているが、ただ人間だけが、知能という生きる為の手段に振りまわされて、この世を住みにくくしている。愚かなるもの汝の名はHomo sapiens。人類の祖先はアフリカの草原に下り立った二人の女性(男性数は不明)に端を発する。したがって皆血縁なのだ。それなのに国だ、民俗だ、宗教だなどといかみ合っている。これが愚でなくて何だろう。繁殖しすぎた人類よ。人類の適性な人口密度に戻れ。それは1kmに1.4人である。(東工大本川達雄先生の説)

6/11 (火) 雨

本格的な梅雨の到来。これもまた良し。昨日



から固形物のない食事。酒、塩分、水、これで生きれるはずだ。横山大観の傑作「生成流転」は酒によって画かれたという。ワサビを醤油に溶いたものをなめながら、酒をチビリチビリ。これが真の贅沢と云うものであろう。

6/12 (水) 晴れのち曇

朝、白い花が散っていて初霜の様だった。朝日と新緑と白い花。これが妙源郷である。高級ブランディー-Remy Martin 入りの紅茶を飲みつつ山を見る。このような幸せがあってよいのか! 晴耕雨読の生活こそ理想的な生き方と思うので、考えた結果、Hütte の南側を畑にすることにした。

6/13 (木) 晴れのち曇

相対性理論を田村式で展開した。昨夜一晩中夢と現の中で計算した。Einsteinと結論は一致した。ついに俺は「ワイン 酒多飲」となった。(このノートの初めの所に書いた)

炭焼実験窯の設置完了。畑作りは困難である。竹の根がはりめぐらされているのには参った。ばちばちやることにする。素粒子論を学ぶ。

6/14 (金) 曇のち晴れ

正午頃ぶらりと小屋を出たら、元倉谷に住んでいた夫婦に出会った。二人とも昭和11年生まれ。私と同年齢である。テント張りの小屋で御馳走になり、みやげまで戴いた。今、小立野3丁目に住んでいる方達である。あさって日曜日にまた来るからおいでと云われた。有り難い、ありがたい。

6/15 (土) 雨、曇、晴れ、曇、雨…つゆ空
皆が俺が無事にいるかどうか心配しているよ
うだから、どっこい生きている証拠を見せに金
沢の街へ出る。小林君宅で風呂に入れてもらい、
カツオの刺身の御馳走になる。長男が額を出し
に来た。立派な青年に成長していた。

6/16 (日) 曇のち晴れ

午前8時頃小林宅を出る。小林君は寝ていた
ので、そのままにしておいた。舟田節子女帝宅
に行き、女房からの小包をもらい、手土産まで
いただいた。

午後1時頃倉谷に着く。羽場さん夫婦は私の
帰りを今や遅しと待っていて下さった。上井得
三郎(ドンソ)、山崎隆(キュービー)…工化
30年入学…と羽場さんは同級性と分かり、ます
ます意気投合す。そして上井、山崎等と似たこ
とを云うことにも同級生を感じた。

6/17 (月) 曇時々雨

ドアの修理、鎌研ぎ、etc…で一日暮れる。
夜、素粒子と超磁について考える。深夜聖書を
読む。

6/18 (火) 曇のち晴れのち雨

駒帰まではがきを出しに行ってきた。途中ダ
ムサイトの道を昨日研いだ鎌で、笹やススキを
払いながら。4時にBergheimに着いて飯を作っ
ていると雨。俺はラッキーに生まれついた。途
中桑の実を食いながらの良き一日であった。

6/19 (水) 雨のち晴れ

西田幾太郎著「善の研究」を読む。学生時代
に読んだ時とは別な感想を持った。若い時に興
味のなかった宗教についての西田の考え方に共
感を覚える。これは年齢のせいかもしれない。

6/20 (木) 曇

還暦を迎えるにあたり、今まで考えていたこ

とをまとめてみた。「時間、存在、超磁につい
て」である。ワングルの諸君に読んで欲しい。
今後は超磁理論の展開を進めたい。



金沢に出る。舟田女史と昼食後、角間の大学
へ行く。驚いたことは学生部ではなくBHに何時
の間にか浮浪者が住みつき、行方がわからなく
なった>と話題になっていたことだった。学生
部に顔を出して

「浮浪者は私です。お騒がせしてすみません。」
と詫びておいた。

前田先生、村田女史に会い、楽しく語り合っ
た。小林君宅に泊めてもらうつもりだったが、
ガッポリ小屋管理手当が入ったので、ビジネス
ホテルに泊まる。

6/21 (金) 雨のち曇

工学部へ行き、電気の鈴木教授(ワングルの
B4期)に会い、久しぶりに歓談。次回彼と飯
でも喰いながら、続きを話すことにする。物質
工学の中本教授とは漆や木炭の重要性について
語り合う。5時頃帰着。

6/22 (土) 曇

朝ブランデー入りのカプチーノを飲みながら、
一昨日舟田女史に提出した超磁についての説明
に不備な点があることに気付いた。早速金沢の
街に出ることにする。そして正国君宅に泊まり、
私の初めての論文について討論しよう。

6/23 (日) 晴れ

金沢からの帰途、羽場さん夫婦に会う。サンマ三匹もらう。飯を炊くのが面倒だから酒にする。サンマと酒。何と幸せな贅沢な夜食よ。それにしても正国君の生活を見て考えさせられた。大学教授とはなんと余裕のない生活なのかと。自分の好きな研究をして、若い人を相手に出来るうらやましい職業と思っていたが、実情は違う。雑用ばかりらしい。自分の好きなことを考え、行動に起こせる、私の現在の生活が一番めぐまれている。神に感謝。無論、人にも感謝。全てに感謝。食って、飲んで、寝る。

6/24 (月) 曇のち雨

鳥のさえずりに目覚め、さわやかな気持ちで酒を飲む。すると頭にひらめいた言葉がある。それは、時間のもう一つの定義。「時間とは、エントロピーの増加を表すための媒介変数（パラメーター）である。」これの方が「時間とは宇宙の表面積である。」よりカッコがよい。7月1日金沢の街へ出た際に舟田女史に伝えよう。山に居ると頭が冴える。当分山から下りられない。

6/25 (火) 大雨

"rain cats and dogs" 昔高校で習った"ドシャ降り雨"が降る。河原に放置してあった洗濯物の入ったポリバケツと大型ポリタンそっくり流されてしまった。被害物件は次の通り。山シャツ1着、半袖シャツ1着、厚手靴下1足、薄手靴下2足、パンツ1着。(以上私物) ポリタンク1個、ポリバケツ1個。(以上ワッゲル備品) 備品については弁償させていただく。



"Nature" 又は "American physical society" に投稿する為に原稿を書き始める。

現在午後2時半、雨は絶え間なく降っている。天が汚れた人間社会に洗礼を施す様に。清められよ、人の世よ。そして甦れ！午後5時、倉谷川の濁流はものすごく、下の遊歩道まで流れが入っていた。金沢の街の無事を祈る。

私が大学に入学する前年昭和29年には、浅野川が氾濫したことがある。BHでは洪水の心配はないが、自分のみ無事であれば良いというノアの心境にはなれない。

6/26 (水) 曇のち雨 (降ったり止んだり) のち晴れ

今日も至福のTwilight Time が訪れた。下手くそな英文による「時間と存在」「エントロピーと超磁」の原稿を書き終え、今紅茶にブランデーをたらしたやつを幸せ一杯で飲んでいる。明日もし晴れたら、水平道 (ダムサイトー倉谷) の危険箇所を修復しよう。

「超磁理論入門」と「聖書」を読む。私の60年の人生を振り返ってみる時、もの心がついて以来、心配事、悩みのなかった時はなかった。今は違う。毎日が晴天である。あたかも鳥や動物が、明日を心配せず、今日という日を精一杯楽しんで生きて居るのと同じである。それは今、自然の中で暮らし、神を受け入れたからである。皆に伝えたい。意識を変えればそこに天国があることを。

6/27 (木) 曇のち晴れのち曇 (心は晴天)

午前中、河原で洗濯していて悶いた。「時間は宇宙の表面積である」と仮定して誘導される力は、現在物理学上の大問題である四つの力、すなわち「重力」「電磁力」「強い力」「弱い力」を統一する力ではないか？と云うことである。神に乾杯、真理に乾杯。

6/28 (金) 曇時々雨 (心は晴天)

昨日に続き「統一の力」を考える。エントロピーは超磁の数 (Σs) を意味する。統一の力を作り出す要素である。

$$F = \Sigma s \cdot \frac{\Delta \omega}{\Delta l} / 4 \pi R^2$$

の式の Σs がエントロピーである。

($\Delta \omega$; 超磁重量 Δl ; 超磁長さ R ; 宇宙半径)

我々は宇宙半径やエントロピーを見ることが出来ない。したがって時計というものを作り、時間をパラメーターにして、見ることの出来ないものを計測しているのである。"Big Bang" で神は空間とぶっしつを創造した。人間は時間を考え出して、その時間によって苦しんでいる愚かしい存在である。

神は私に宇宙創造の秘密を打ち明けられた。

今こそ、日本酒の抹茶割りで神をたたえん！乾杯！"我々の神とは天地之に由りて位し、万物之に由りて育する宇宙の内面的統一力でなければならぬ" 西田 幾多郎。

6/29 (土) 晴れ (心も晴れ)

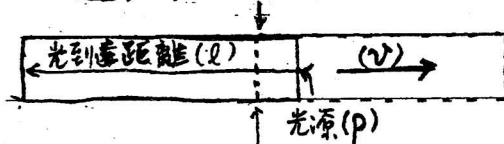
午前中、ダムサイト方面に道の状態を見に行く。沢の入り込んでいる箇所は何処も相当崩れていた。丸木橋を架けることに方針を変える。

6/30 (日) 雨曇りのち晴れ (心は無論晴れ)

明日は工学部中元教授、舟田女史に会いに金沢に出る。超磁理論を学ぶ。必ずマスターする！一世一代の論文 (英文) を書き終える。もう死んでもよい。生きたあかしが出来た。乾杯！神に栄光あれ！

相対性理論 ワイン多飲

運動系観測点 (0)



静止系観測点 (0)

走行中の車輛の進行方向の先端に光源を置き、車輛後尾に観測点を置き、 t は車輛速度 (v)。アインシュタインは光の光源への伝播を考えた。ワイン多飲は光の片道を考え単純化した。云うまでもなく時計は静止系、運動系とも同時に合わせた。静止系の時刻を t 、運動系における時刻を τ とする。

$$t = \frac{l - vt}{c} \rightarrow t = \frac{l}{c + v} \quad \text{--- ①}$$

$$\tau = \frac{l}{c} \quad \text{--- ②}$$

$$\text{① ② から } \frac{\tau}{t} = \frac{l/c}{l/(c+v)} = \frac{c+v}{c} = 1 + \frac{v}{c}$$

(I) なって運動系における時間では $(\frac{v}{c})$ だけ静止系よりゆくり経過する。

静止系での測定による車軸の長さも l_0 とすると

① から $l_0 = (c+v)\tau$ ——— ③

運動系での測定による車軸の長さも l' とすると

② から $l' = c\tau$ ——— ④

③ ④ から $\frac{l'}{l_0} = \frac{c\tau}{(c+v)\tau}$

比をとり $\tau = \tau$ とすると $\frac{l'}{l_0} = \frac{c}{c+v} = \frac{1}{1+\frac{v}{c}}$

(II) より、運動系に於ては長さ l は静止系の長さより
(v/c だけ) 短くなる。

運動のエネルギーの式 $\frac{1}{2}mv^2$ (m : 質量
 v : 速度)

これを次元で表わせば $E = \frac{[M][L^2]}{[T^2]}$ となる。

運動系に於ては時間 $[T]$ が大、長さ $[L]$ が小。

運動系速度 $\frac{[L]}{[T]}$ が静止系で測定したより小くなる。

(III) エネルギー E は一定であるから、運動系の質量 m は
静止系の質量より大となる。

以上結論はアインシュタインと同じだが、ワイン酒
(I)(II)(III)

多飲は酔、ばりいながら、光の片道しか考えに入れな
が、たがう 時間、長さ、質量の増減率の精度
には保証しかない。これも酔狂と御容赦願いたい。

Bergheim にて 1996.6.13

Akio Weinstein

[$E=mc^2$ について] ワインスタイン

アインシュタインは彼の^{最初の}論文にミンコフスキーの式
 $x^2+y^2+z^2=c^2t^2$ を使っている。

この式からすぐわかることは 光速 $c = \frac{x^2+y^2+z^2}{t^2}$
 3次元で表現すれば $c^2 = \frac{[L^2]}{[T^2]}$ である。

エネルギー $E = \frac{[M][L^2]}{[T^2]}$ であるから $E=mc^2$ となる。

こんな簡単な中学生でもわかることを何故にも、て
 まわった様な式をこねくりまわしてKのかわからない。

彼の犯した大罪はこの式を使って米大統領に原爆
 の製造を示唆したことにある。ドイツの原爆製造を
 恐れたからかと思うが、皮肉なのはドイツ降服の後
 に日本で使用されたことである。

晩年、彼は反省して平和運動に力をつけたが彼の
 罪はヒトラーの罪と同様、永遠に消えない。



A. Weinstein

Bergheim 1996.6.14

「時間とは宇宙の表面積である」

($\sigma=4\pi R^2$... ワインシュタインの式)
 (但しRは宇宙半径)

時間をニュートンは0次元とし、アインシュタインは
 1次元とし、私はアインシュタインは2次元とした。

Cf: エディントン(英国物理学者)曰く、

「物理学で最も大切なことは次元を充分に
 考えることである」

[エントロピーと超弦]

エントロピー S の次元は $\frac{E}{T}$ (E =エネルギー
 T =温度)

として知られているが

温度 T は $\frac{E}{N}$ エネルギーを粒子数で

割ったものである。

したがってエントロピー、 $S = \frac{E}{\frac{E}{N}} = N$ となり

エントロピー S は粒子数 N の意味になる。

エントロピーの増加は粒子数の増加
 に言い換えることも出来る。

現在、素粒子はクォークとレプトンが究極の素粒子とされているが、もしこれ等の素粒子が超弦と呼ばれる長さ(10⁻³⁴cm)の紐からなるとしたら、この宇宙はビッグバン以来、紐の増加過程と云えよう。

(cf: 超弦は日本人物理学者南部陽一郎の発想である。)

「存在とは何か」

ワインスタインの式 $\sigma = 4\pi R^2$ を使ひ
宇宙に散在する物質の状態を式で表は
せば $\frac{\sum \Delta \cdot \Delta W}{4\pi R^2}$ 但し $\sum$: 超弦(物質)の数
 ΔW : 超弦質量(M)/[L]
R: 宇宙半径

力Fは

$$F = \frac{[M][L]}{\sigma^2} = \frac{[M][L]}{[L^2]^2} = \frac{[M]/[L]}{[L]^2}$$

$$\frac{\sum \Delta \cdot \Delta W}{4\pi R^2} = \frac{[M]/[L]}{[L]^2}$$

$$\therefore \frac{\sum \Delta \cdot \Delta W}{4\pi R^2} = F$$

(cf: ヒュッセルの式 $H = \frac{\sum i}{4\pi r^2}$
但し H: 磁場, $\sum i$: 電流の和, r: 回路半径)

結論: 存在とは力也。

全ての存在が宇宙の力を形成するの

南としている。拡大してゆく宇宙で

異なる事象は同じようで、同じではない。

時間が矢ではなく球面とすれば、くり返し

起る事象を説明出来る。歴史認識の

一助となれば幸いである。

以上が「歴史を迎えるにあたり」

今まで考えていたことをまとめ
てみたものである。

世界は単純なもの、フラクタルに
構成されたものであると云う信念
にもとずいて考えてきた。

山小屋にあり、40日、このような機会と
与えて下さった金木ワシロOB会事務局長
舟田節子さんに心より感謝をこめ、又
この地に眠る高桑弘親君の霊に
これを捧げる。

Bergheim 1996.6.20 ワイン酒亭



続ワイン酒多飲日記

7月1日(月) 曇

舟田女史に会い、一方的にしゃべりまくって
申し訳なかったが、人と話す機会がしばらくな
かったもので、つい度を越してしまった。反省。
工学部で元井教授と雑談して、帰りに氷室饅頭
をもらう。金沢らしい伝統はここにもまだ生き
ている。喫茶店「ばたん」は開店50周年で我々
の学生時代のコーヒ一杯の価格50円でサービ
スしていた。学生の客はない様だった。時代の
流れを感じさせられた。

7月2日(火) 曇

うるしかき道具を送る為に金沢に出る。食糧
類と偶然見つけた竹内均著「哲学の歩き方」を
買う。7時頃小屋に帰着す。10時半頃ふと目を
覚ますと外は満月。寝るには惜しい。酒を片手
に小屋の外で月見の宴としゃれこむ。万感胸に
迫り、昔山でよく唱った歌 "When the moon
comes over the mountain" を唱った。そろそろ
梅雨明けかもしれない。

「倉谷の沢音高き月の夜に 重ねし酒杯に
夜も眠れず」 晩風

7月3日(水) 梅雨晴れのち曇のち雨
(梅雨型天候)

「哲学の歩き方」竹内均著によれば
「科学における第一級の仕事は、大胆な仮説の
提案である。あとになってそれが実証されれば、
その分だけその科学が大きく飛躍する。観察や
実験によって反証されないで残った知識の全体
が科学である。科学は真理であることを主張す
る知識の体系ではない。それよりもむしろ、偽
りであることが立証されていないために、偽り
であることが立証されないうちは支持され、ま
た信頼される知識の体系である」
これ程私に勇気を与えてくれる言葉はない。私
の初めての論文を竹内先生が支持してくれたと
云っていい。竹内先生にも私の論文を送ること
にする。(竹内均氏は四高出身であり「物理の
傾向と対策」で高校時代にお世話になった。)

7月4日(木) 曇

遊歩道(倉谷-ダムサイト)の道路整備。11
am-5 pm。中間点にあたる沢迄。丸木橋の材料
になる木を切る。

7月5日(金) 雨

英文の論文の結論(3)の不備に気付いた。
Conclusion
(3) The time measured by watch deserve to
only parameter in order to express
universal(true) time and entropy.
これが最後の訂正だと良いが。

7月6日(土) 曇のち晴れ

10時-14:30 時迄、倉谷-ダムサイト間遊歩
道整備。一昨日の残り、中間点の沢からダムサ
イト迄。行きに一人、帰りに一人に出会う。ツ
ユも明ける頃、夏山シーズンの到来か。山道の
整備も始めねばなるまい。疲れて酒を飲んだら
気分が良くなり、何か書きたくなった。物理学
者の寺田寅彦は「好きなもの イチゴ、コーヒ
ー、花、美人、懐手して宇宙見物」とってい
るが、私は最初だけ違う。私は「好きなもの
ワイン、同じ」である。久し振りに夕焼けがき
れいだ。明日は来客があるような予感がする。

7月7日(日) 曇

今日は聖日、たなばた祭。朝早くから、日本
酒の麦茶割に第Ⅱ物のハチミツを入れ、マリー
ムをなめなめ幸福感を味わっている。哲学や物
理、数学のテーマを頭に入れ、そのテーマの熟
成をゆっくり待つ。あたかもワインが出来よう
うに。至福の人生に乾杯。ここ倉谷が街の暮ら
しに疲れた人達の憩いの空間に、Berg heim が
酒と学問を愛する人達の梁山泊になればよい。
心からそれを願う。予感的中。昼頃大出徹君、
小屋に到着。越冬できるくらい大量の食糧をも
らう。感謝。二人で金沢に下る。

7月8日(月) 曇

金沢のビジネスホテル シマノで泊まり、午後1時頃帰着。ドアにコーヒー、酒のツマミ等の入った袋が掛けてあった。金山谷に居る向井氏の所に居た工学部化工45年卒の後輩からのものだった。感謝。留守にして申し訳ない。

7月9日(火) 曇

今日も又、おだやかに暮れてゆく。紅茶にたらしした日本酒の香りがたまらない。蚊取線香のききめバツグンである。

論文に又も付け加えの二ページを書いてしまった。舟田女史には御迷惑なことと思うが、お許しを乞うしかない。

「カメ虫ホイホイ」を製作すれば売れる。又、アルコール入りアイスクリーム、アイスキャンデーも作ればホイホイ売れること請け合い。何と素晴らしいアイデアであろうか。山の水と空気が発想を豊かにする。

7月10日(水) 晴れのち曇のち小雨

一日中読書。こんなことで良いのかと自分を疑う。もう一人の自分は今こそじっくり考えて次の大飛躍に備えよと云う。私には大きな仕事がある。この倉谷をユートピアにすることだ。その為のマスタープランを今練ることである。道を整えることである。読書ばかりにふけてはならぬ。ツユ明けとなったら戸外に出よ。そして皆の為の道を整えよ。あせらず、少しずつ。今は晴耕雨読で良いではないか。聖書を読み。そして祈れ!

7月11日(木) 曇

朝6時半日本酒のコーヒー割を飲みつつ、我決意す。"70才迄にこの地上に神の国を建設し、80才で逝く"まずその第一歩は倉谷から。神よ、我にその力を与えたまえ!

糸吉 書翰

- (1) 存在は力を生ずる。宇宙の中心に発生する力は宇宙を拡大する力となる。
- (2) この力は他の4つの力「重力」「電磁力」「弱い力」「強い力」を統一するかもしれない。
- (3) エントロピーは超磁の数のことであり、時計によって計られた時間はエントロピー(超磁の数)増加のパラメーターである。
(超磁の長さ10 cm以下)

[Pray to Lord]

Our Father which art in heaven,
Hallowed be thy name.
Thy king-dom come,
Thy will be done in KURATANI, as it is in heaven.
Give us this day our daily bread.
And forgive us our debts, as we forgive our debtors.
And lead us not into temptation, but deliver us from evil;
For thine is the kingdom, and the power, and the glory, for ever.



経典売ワイン酒多飲日記

7/12 (金) 晴

朝9時小屋を出る。金沢論文追加を提出することと、先祖の墓参りである。父方と母方の墓地へ行く。泊まりは例のビジネスホテルシマノ。8月3日の会津から出てくる家族の為の予約をしておいた。午後8時街へ散歩に出る。「ぼたん」でコーヒーを飲み、「リリー・マルレーン」で久し振りにドイツ語と英語でリリー・マルレーンを唄う。山形県米沢出身のアルバイトの女子大生と知り合う。

7/13 (土) 晴

金沢で久し振りに自由軒のカレーライスを食べる。昔とちょっと味が変わった。もっとカラかった気がする。年齢のせいかな。味覚が変わったのか。遊廓の跡が茶屋になっていて、そこで抹茶アイスを飲んだ。昔の廊の面影を偲び、若い女性達の観光客が、かつての娘達が春を売って生きていた事実を知ってか、知らずか、外人女性まで来ていた。時は確実に過ぎてゆく。午後7時前に小屋に帰着。

7/14 (日) 晴

今日も又至福の夕暮を迎える。橋を架ける為の流木を二本、倉谷川吊橋を渡って最初の沢まで運ぶ。帰り道、倉谷川にドンブリコと浸かり汗を洗い流す。屋頃、親子三人に河原で出会う。小屋で一服するようにと誘ったが、山賊とでも思ったのか、小屋に来なかった。彼等にはわか雨に会っている筈である。人を信ずれば良いのに。

7/15 (月) 曇のち晴

夕刻5時頃、英文の時間論の「概要」と「謝辞」を持って金沢に下る。舟田女史の郵便受けに入れ、天神橋の卯辰山側にある無料休憩所で泊まる。この休憩所は2間×3間の広さでBerg

heimと同じである。違うのはその材料の立派さである。太い柱に、太い梁がつ使われ、図書棚まである。その中の柳 宗悦の民芸論を読み、浅の川の川面の風で夕涼みとは、何とオツなものぞごさんしょう。

7/16 (火) 晴

まだ暗いうちに掃除のボランティア婆さんがやってきた。次に早起き会の爺さん連中の集まりが休憩所で開かれた。寝ているどころではなくなった。私も爺さんの仲間に加わり、ワイワイやった。八十才の爺さんとはやはり話が噛み合わない。屋頃小屋に帰着。

7/17 (水) 快晴

八月三日に金沢に来るという娘達にそれぞれ便りを書いて、ポストに出しに駒場まで下る。途中65才の元倉谷の住人と知り合う。市役所に定年まで勤めた由。

7/18 (木) 快晴

今日も何事もなく穏やかに暮れてゆく。下界はどうなっているか、私の関知しないこと。マタイ伝18章に次のようなことが書いてあった。弟子達がイエスに「天国では誰がもっとも偉いのですか」とたずねると、イエスは子供を呼びよせて皆の前に立たせて云った。「あなた達が変わり、この子供の様にならなければ天国は受け入れない。天国で一番偉いのは、この子供の様に、自分を何も知らない、無知なものと思っている人間である」と。島林君が聞いた泣いて喜ぶ言葉だ。大人になれないなどと嘆くことはない。いつまでも子供の心を持ち続けることが偉いことなのだ。

7/19 (金) 快晴

流木を切って丸木橋の材料とする。直径20cm長さ3mは少々運ぶのに力と時間が必要。今日は切るだけ。午後は丸裸で倉谷川で水浴。いい

ものだ。俺は捨てた。世を捨てたのではなく、古い自分を捨てた。あとは自然に、倉谷川の流れにまかせて生きるだけだ。神にこの肉体を提供したからには、人間とは単純で簡単なものをわざと難しく考える性癖がある。この世を天国にするのは簡単だ。意識を変えればである。物は人類皆平等に分かち合い、エネルギーの消費を少なくする。この世から飢えと戦争を追放する。これ等はすぐ出来る。出来ないのは愚者が多いからだ。

7/20 (土) 晴

午前中倒木を切る。これも木橋の材料。ゴリを取りに来た人に会う。大学は既に夏休みに入ったはず。小中高の夏休みも近い。丸木橋の建設を急かねばなるまい。午後、大統一理論について考えた。論文に書いた「統一の力」は万有斥力 (Repulsion) と名付ける。竹内 均の「哲学の歩き方」と西田 幾多郎の「善の研究」を読み感じたことは、「あらゆる真実は人間のものであり、真理は神のものである」ということである。したがって真実は無数にあり、真理は唯一つ。

7/21 (日) 快晴

今日はかなり山に入った人がいた様である。小屋を訪れた人はなかった。午前中は昨日と同じ、倒木を切る。午後はジョン・バロウ著「宇宙が始まるとき」にのっていた4つの力の分かれる先の不明になっていたところに、私の万有斥力 (Repulsion) を書き込み、明日、舟田女史に提出する予定。真夏の太陽が輝く河原で寝そべりながら幸福感に浸った一日だった。これからの人生は、何時死んでもいいような生き方をしたい。まだ見ぬ明日よりも今日を充実させよう。山道を整備すること、聖書を読むこと、それが私の義務である。仕事である。神の国の建設の為に。



「夏はオロロカ出るんですよ！」

「でも、昔は人が住んでいたんでしょ。それなら暮らせんことないですよ。」

と、田村先輩は颯爽と、マウンテンバイクに跨がり、倉谷へ戻られるのでした。

補助金を受け渡しにおいてたスポーツ振興課の尾崎主査 (小3まで倉谷に住んでいた) に、羽場さん夫婦が一番上の姉であること……

「ほやわいね。そんなくもの好きな所へ行くモンな、昔住んだったモンくらいしかおらんワイネ。」

を確かめた後、

「アノ……オロロはどうしておいでたんですか？」

「そんなモン。パチンと叩くだけやワイネ」……愚問でした。

さて、梅雨があげ、猛暑とオロロの夏……修行はいよいよクライマックスを迎えようとしています。

こんな折りに、田村先輩は還暦を迎えられることになりました。会津若松から、ご家族が、お祝いと偵察におみえになります。キリストには、マリア様が、田村さんには、昭子夫人がいらっしゃるのです。(求道者の蔭にさらに偉大な母性あり！)

8月3日の晩は、リリー・マルレーンにて<軟弱グループ>と酒宴を張り、4日の昼は前田顧問、大島OB会会長、他と、BHで炎暑の宴を張る予定。ご家族の方は、田村先輩が担ぎこまれた蚊帳の中で倉谷の夜を過ごされることになっています……。